

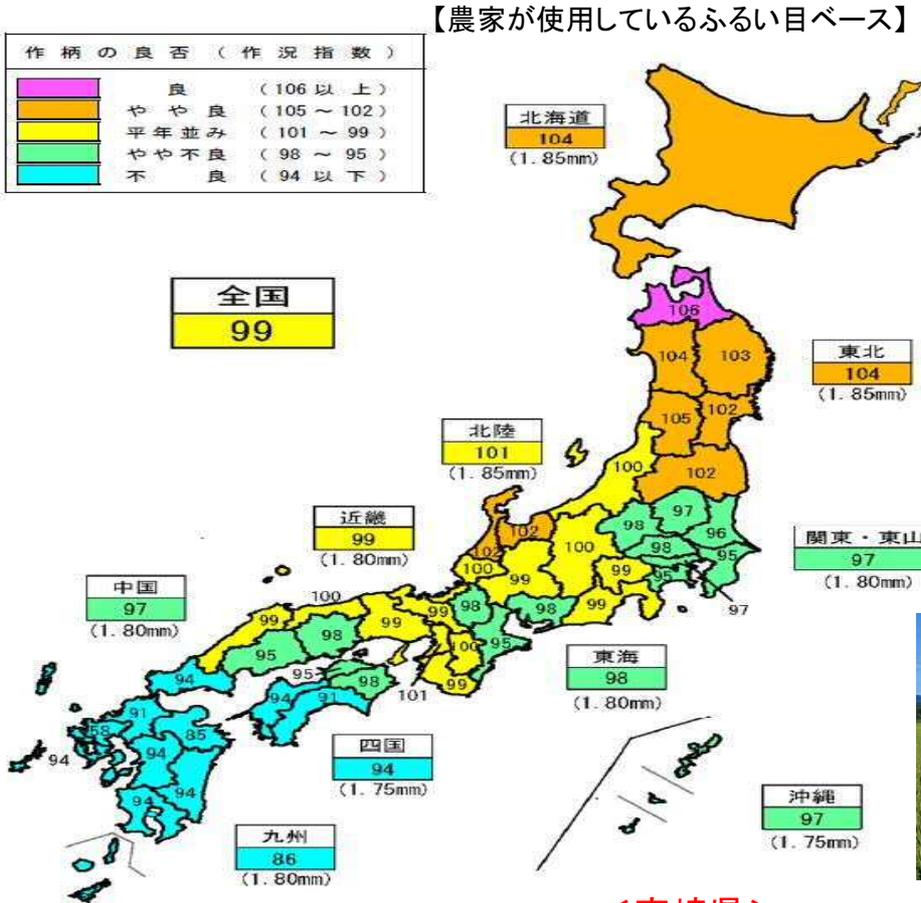
# 宮崎版 米に関するレポート

※ 農林水産省では米に関する需給動向等のデータを「米に関するマンスリーレポート」として公表し、需要に応じた米の生産を推進しております。今回、公表されたデータより、宮崎県産米に関する情報等を抜粋し、農家の皆様へ情報提供しております。

## 全国農業地域・都道府県別作況指数(令和元年12月10日公表)

【農家が使用しているふるい目ベース】

作柄の良否(作況指数)	
■	良 (106以上)
■	やや良 (105~102)
■	平年並み (101~99)
■	やや不良 (98~95)
■	不良 (94以下)



注:1 全国農業地域の作況指数の下に記載されている括弧内の数値は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅である。  
2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培(第一期稲)、普通栽培(第二期稲)を合算したものである。



### <宮崎県>

宮崎県
合計 465kg(94)
早期 459kg(96)
普通 469kg(92)

西北山間
合計 459kg(95)
早期 -
普通 459kg(95)

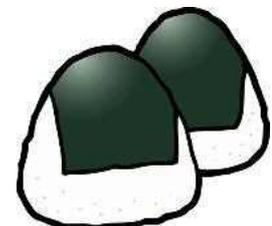
凡例
10a 当たり収量
(作況指数)

作況指数	作柄
106以上	良
105~102	やや良
101~99	平年並み
98~95	やや不良
94以下	不良

広域霧島
合計 485kg(92)
早期 -
普通 485kg(92)

広域沿海
合計 453kg(95)
早期 459kg(96)
普通 437kg(92)

資料:農林水産省「令和元年産水陸稲の収穫量(令和元年12月10日公表)」  
「令和元年産水陸稲の収穫量(九州)(令和元年12月10日公表)」  
農林水産省HP > 統計情報 > 分野別分類/作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など > 作物統計 > 作況調査(水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物)



## 令和元年産米(主食用)の作付状況について(主要5県と宮崎)

都道府県	主食用米の作付状況						令和元年産		
	平成30年産			元年産の作付意向 (対前年実績)		令和元年 産の作付 状況(ha) ②	前年産 からの 増減 ②-①	作況指数 (%) (令和元年12月10 日公表)	収穫量 (主食用) (万トン)
	30年産実 績(ha)①	作況指 数(%)	収穫量 (主食用) (万トン)	4月末	6月末				
新潟	104,700	95	55.6	→	→	106,800	2,100	100	57.9
北海道	98,900	90	49.0	↓	↓	97,000	-1,900	104	55.4
秋田	75,000	96	42.0	→	→	74,900	-100	104	44.9
茨城	66,800	99	35.0	→	→	66,400	-400	96	33.5
宮城	64,500	101	35.5	→	→	64,800	300	102	35.7
宮崎	14,700	100 ----- 99	7.3	↓	↓	14,600	-400	早期 96 ----- 普通期 92	6.8
全国計	138.6万	98	732.7	/	/	137.9万	-0.7万	99	726.1

資料:農林水産省農林水産省「令和元年産水陸稲の収穫量(令和元年12月10日公表)」  
「令和元年産の水田における作付状況(確定値)(元年10月31日公表)」

## 令和元/2年[令和2/3年]の主食用米の需要見通し

(単位:万トン)

令和元/2年	令和元年6月末民間在庫量	A	189
	令和元年産主食用米等生産量	B	727
	令和元/2年主食用米等供給量計	C = A + B	916
	令和元/2年主食用米等需要量	D	727
	令和2年6月末民間在庫量	E = C - D	189

令和2/3年	令和2年6月末民間在庫量	E	189
	令和2年産主食用米等生産量	F	708~717
	令和2/3年主食用米等供給量計	G = E + F	897~906
	令和2/3年主食用米等需要量	H	717
	令和3年6月末民間在庫量	I = G - H	180~189

※令和2/3年の需要量は、前年から10万トン減少で需給見通しを策定。

資料:農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(令和元年11月)」 「米に関するマンスリーレポート(令和元年12月号)」

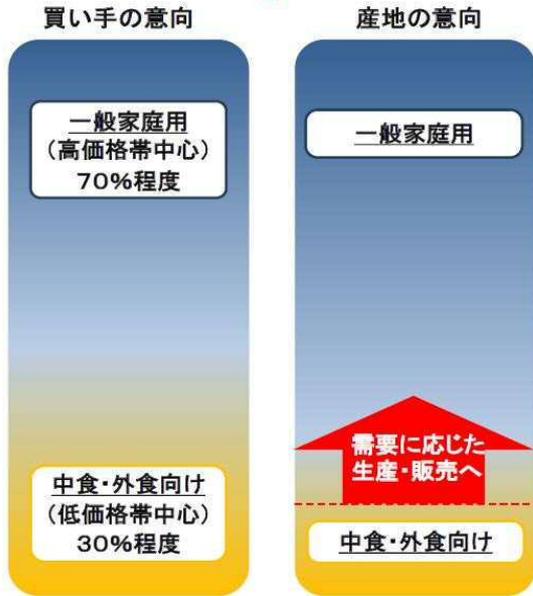
## 消費拡大情報サイト「やっぱりごはんでしょ！」

このサイトでは、お米をもっと身近に感じていただけるような情報をお届けします。

農林水産省HP → 政策統括官 → 米(稲)・麦・大豆 → 米の消費拡大情報サイト「やっぱりごはんでしょ！」

# 需要に応じた販売について

【買い手の意向と産地の意向のミスマッチ】



令和元年産生産量：727万ト (10月15日現在)

- 中食・外食の実需者が求める品質
- 【用途に適した例】
- おにぎり: 適当に粘りがあり良食味で歯ごたえのある銘柄米
- 寿司: 酢が入りやすく歯ごたえのある米
- 丼物: 液通りの良いやや硬質米 (中食・外食事業者への聞き取り)

資料: 農林水産省「米をめぐる関係資料(令和元年11月)」「稲作コスト低減における多収化の意義について(平成31年3月)」「米の消費拡大について(令和元年9月)」

○産地は、高価格帯中心の一般家庭用の米を生産する意向が強い。  
○一方、買い手は、3割を占める低価格帯中心の中食・外食向けにも対応した米生産へのニーズがあり、ここにミスマッチが生じている状況。

○一般家庭用、中食・外食向け各々の需要に応じた生産・販売の取組を進める必要。  
それを行わない場合には、結局、国内主食用米需要全体の一層の減少につながる。

## 多収化によるコスト低減効果 (1俵当たりのコストイメージ)



## 生産コスト削減に向けた具体的な取組

### 省力栽培技術の導入

#### 直播栽培 (育苗・田植えを省略)

(実証例)  
労働時間  
18.4時間/10a → 13.8時間/10a  
(移植) (直播)  
費用(利子・地代は含まない)  
103千円/10a → 93千円/10a  
(移植) (直播)



#### スマート農業技術の活用

営農管理システムの導入等により、作業のムダを見つけて手順を改善 (実証例)  
田植え作業時間  
1.62時間/10a → 1.15時間/10a  
(補植作業時間の削減)

#### 密苗栽培

育苗箱数を減らせるため、資材費の低減が可能。  
苗継ぎも少なく省力的  
(実証例) 育苗箱数 15~18箱/10a → 5~6箱/10a



### 大規模経営に適合した品種

#### 多収品種

単収  
530kg/10a → 700kg/10a  
(全国平均) (多肥栽培で単収増)  
生産費  
16千円/60kg(全国平均)  
→ 13千円/60kg(試算)

#### 作期の異なる品種の組合わせ

作期を分散することで、同じ人数で作付を拡大でき、機械稼働率も向上  
作業が短時間に集中 → 作業ピークを分散  
1日当たり作業量  
コシヒカリ 作業時期  
ミルキーサーマー コシヒカリ あきだわら

### 担い手への農地集積・集約等

- 今後10年間 (2023年まで) で全農地面積の8割を担い手に集積
  - ・ 分散錯圃の解消
  - ・ 農地の大区画化、汎用化

資料: 農林水産省「米をめぐる関係資料(令和元年11月)」

# スマート農業

○ 農業就業人口414万人 (1995年)  
→ 210万人 (2015年)

・農業従事者の減少が見込まれる中、農業の生産性を飛躍的に発展させるためには、機械メーカーやITベンダー等と農業者が連携して、発展著しいロボット、AI、IoT、ドローン等のスマート農業に活用できる新たな技術を生産現場に積極的に導入していくことが不可欠です。

## 我が国の農業の強み

- ・ 気候や土壌などの地域特性に対応した匠の技
- ・ 全国各地の地域性を反映した、多種多様で美味しい品目、品種
- ・ 消費者ニーズに即した安全安心な農産物

## 先端技術

ロボットトラクタ



作業時間を4割削減

アシストスーツ



従来の半分の力で持ち上げ動作が可能

ドローン



ほ場全体のセンシングデータを基に最適な施肥・防除

## 「農業技術」 × 「先端技術」



## スマート農業



## スマート農業の効果

- ・ ロボットトラクタやスマホで操作する水田の水管理システムなど、先端技術による作業の自動化により規模拡大が可能に
- ・ 熟練農家の匠の技の農業技術を、ICT技術により、若手農家に技術継承することが可能に
- ・ センシングデータ等の活用・解析により、農作物の生育や病害を正確に予測し、高度な農業経営が可能に

## 生産から出荷までの先端技術の例

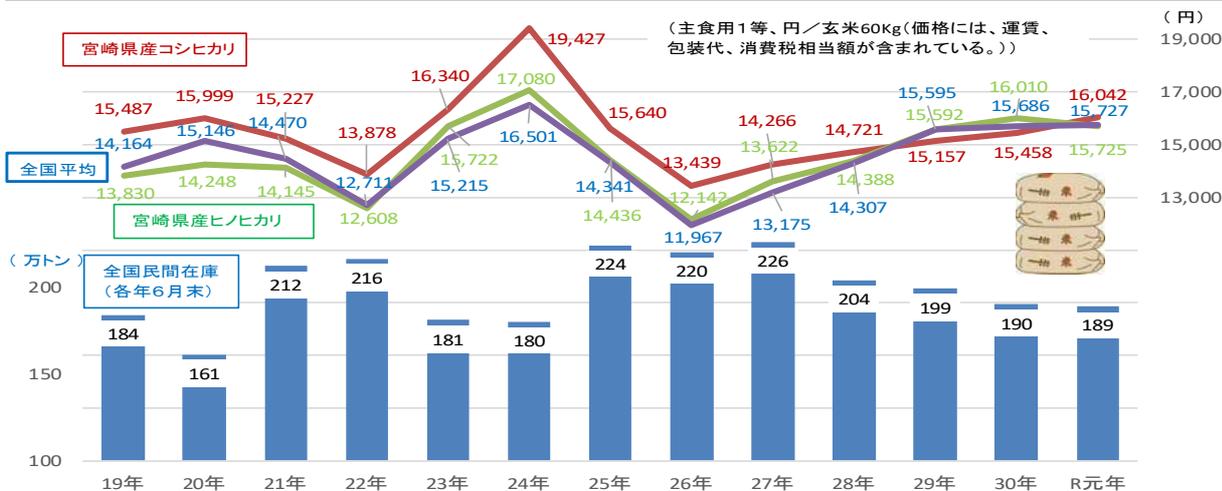
<p><b>耕起・整地</b></p>  <p>自動走行トラクタの無人協調作業</p>  <p>ICT農業用建機</p>	<p><b>移植・播種</b></p>  <p>ドローン播種</p>  <p>ネギ全自動移植機</p>  <p>乗用型全自動移植機</p>	<p><b>栽培管理</b></p>  <p>リモコン式自動草刈機</p>  <p>自動走行スプレーヤー</p>  <p>インシシICT捕獲機</p>
<p><b>施肥</b></p>  <p>ドローンを活用したリモートセンシングと施肥</p>	<p><b>収穫</b></p>  <p>アスパラガス収穫ロボット</p>  <p>イチゴ収穫ロボット</p>  <p>収穫野菜自動運搬車</p>	<p><b>経営管理</b></p>  <p>経営管理システム</p>

【農林水産省HP→キーワード→スマート農業】(又は、農林水産省HP→政策情報→基本政策→技術・研究→スマート農業)



資料:農林水産省「スマート農業の展開について」(米をめぐる関係資料)(令和元年11月)

## 宮崎県産コシヒカリ・ヒノヒカリ相対取引価格と全国民間在庫



資料:農林水産省「米に関するマンスリーレポート」「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」

民間在庫が減少すれば相対取引価格は高騰し、民間在庫が増加すれば低下傾向になっています。

発行: 宮崎市老松2丁目3番17号

九州農政局宮崎県拠点 地方参事官室 (経営所得安定対策)

TEL 0985-22-3184 FAX 0985-22-5920

本紙の記載内容等についてのご質問・ご意見等がございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。